

赤十字NEWS

December 2012 Vol.871
http://www.jrc.or.jp

12



日本赤十字社

赤十字新聞 編集・発行/日本赤十字社 企画広報室 〒105-8521 東京都港区芝大門1-1-3 TEL:03-3438-1311 一部20円 赤十字新聞の購読料は、社費に含まれています。

CONTENTS

TOPICS 2

宮城県支部創立125周年記念赤十字大会
東日本大震災からの復興に向けて

赤十字広報特使 藤原紀香さん
浪江町民の健康調査に参加

TOPICS 3

今度は名古屋
SKE48とAED講習

シンポジウム
「災害対応とボランティア」

期中初の理事会を開催

常任理事会開催報告
理事会開催報告

SPECIAL 4 | 5

海外たすけあい
あなたの寄付で
支援活動を支援してください

AREA NEWS 6 | 7

千葉・大阪・愛知・栃木・香川・岐阜・群馬・
愛媛・静岡・徳島・神奈川・沖縄・兵庫

心からの寄付に感謝!

京都府南部豪雨災害への
義援金報告

赤十字発祥のドキュメンタリー番組
プレゼント

WORLD 8

ネパール:海外たすけあい特別レポート①
防災事業支援に高い期待

ケニア:海外たすけあい特別レポート②
事業の成果は母子の笑顔

ハリケーン「サンディ」
被災者支援へ救援金募集中

連載最終回
ドクター中出のカロンゴ日記

たすけあいを、忘れない。 「海外たすけあい」寄付金募集中! (12月1日~25日)

紛争や災害、飢餓や病気などに苦しむ人々を救うため、日本赤十字社とNHKが共同で実施している「海外たすけあい」。ご協力いただいた寄付金は、日赤や国際赤十字が世界で取り組む支援活動に役立てられています。東日本大震災では160以上の国・地域から1000億円近い支援が寄せられました。今度は私たちが世界にできることを。「たすけあいを、忘れない。」皆さんの温かい気持ちを、日赤へお寄せください。(4、5、8面に関連記事)

ケニアで地域保健強化活動を行う日赤職員の五十嵐真希さんとケニアの子ども

クローズアップ **ひと**



ピアニスト
辻井伸行さん

「あきらめないで」と伝えたい

世界で活躍するピアニスト、辻井伸行さんが、宮城県で開かれた赤十字大会で特別コンサートを開催。美しい音色で会場を包みました。

「つらい体験をされた方々もいると思います。皆さんにあきらめないでほしい、という気持ちを音楽で伝えたい」と真心のこもった演奏を披露。

「自らも被災しながら、救護や復旧に取り組んだ皆さんの活動は、ひとことというなら感動です」と赤十字の活動を激励しました。また、震災直後にアメリカで公演

した際、日本への募金活動に多くの協力があつたことを振り返り、「世界が日本に手を差し伸べているというメッセージに、とても勇気づけられました」。

コンサートでは鳴りやまない拍手に応え、被災地を思っ作曲した「それでも、生きてゆく」を演奏。会場では涙ぐむ人の姿も少なくありませんでした。

演奏を終えて、「音楽の力はすごい。これからも、できるかぎり被災地を訪問していきたい」と、抱負を語りました。

PROFILE

1988年、東京都生まれ。10代初めから交響楽団との共演やソロコンサート活動で注目を集め、2009年、ヴァン・クライバーン国際ピアノコンクール(アメリカ)で日本人として初めて優勝し、国際的にも活躍。同年、文化庁長官表彰(国際芸術部門)。2010年、第11回ホテルオークラ音楽賞及び第1回岩谷時子賞受賞。

宮城県支部
創立125周年
記念赤十字大会

東日本大震災からの復興に向けて

日本赤十字社宮城県支部創立125周年記念赤十字大会が11月15日、日本赤十字社名誉副総裁の秋篠宮妃殿下ご臨席の下、東京エレクトロンホール宮城(宮城・仙台市)で開かれました。

この大会は、支部創立125周年を記念するとともに、赤十字活動に顕著な功績のあった方への表彰として有功章などを贈呈し、赤十字活動の普及を一層推進していくというものです。同県での開催は100周年大会以来25年ぶり、また東日本大震災後、東北被災県では初めての赤十字大会となりました。宮城県内の赤十字社員やボランティアの代表など約1300

人が参加しました。秋篠宮妃殿下がお言葉「力強い活動を国内外で」

今年の有功章受章者は、454人。個人代表の阿部守枝さんや法人代表の北村製作所宮城工場、奉仕者代表の熊谷えつ子さんなど代表14人が、秋篠宮妃殿下から有功章を授与されました。

秋篠宮妃殿下は、自ら被災しながら救援救護にいち早く取り組んだ赤十字の活動に「被災された方々の大きな励みになりました。被災したことを大変心強く思います」「赤十字に寄せられる期待と要請は、今後ますます高まってくると思います。より一層力強い活動

を国の内外において進められることを願ってやみません」と述べられました。看護学生が看護体験を発表

大会では、代表者による活動発表も行われました。石巻赤十字看護専門学校3年の高橋里奈さんは、震災時、避難所に運び込まれてくる人たちに夜通し励ましの声をかけ続け、冷えた体をさすり温めるなどの救護活動に奔走。『今回の経験から、人々の苦痛に手を差しのべるという赤十字の理念の尊さを再確認することができました』と振り返り、『将来、赤十字看護師として自信と誇りを持って活動できるよう、学び続けたい』と決意を表明しました。

式典後、ピアニストの辻井伸行さんによるピアノコンサートが行われ、美しいピアノの音色に、会場は大きな感動に包まれました。



©Ichigo Sugawara



©Ichigo Sugawara

赤十字広報特使 藤原紀香さん

福島県いわき市/二本松市へ

浪江町民の健康調査に参加



浪江町民とこのころのケアに取り組む紀香さん。「気持ちがよくて、眠くなったよ」という男性の感想に、参加者は大爆笑です(二本松市の仮設住宅集会所)

など孤立しやすい状態になっています。

そこで日本赤十字社では、10月15日から来年9月末まで、看護師・保健師が直接自宅を訪問する健康調査や健康相談を実施中。このころのケアやコミュニケーションづくりをサポートしています。

健康不安と断ち切られたきずな

佐藤郁恵さん(29)は小学2年生のあかねちゃんと二人暮らし。「いかがですか」「体調はどうですか」と優しく話しかける紀香さんに、震災以来7回も避難場所が変わったという佐藤さんは「落ち着かないですね。親子ようだいや

友達とも離れ離れで、なかなか会えません。一番の心配ごとは、子どもの健康。健康調査や健康相談は心強い活動となっています。

2軒目の上野富由子さん(44)は、原発事故後、ご両親とともに千葉県に避難。今年4月にいわき市内に移り、引き続き避難生活を送っています。「千葉では体のあちこちらが痛くなつて診てもらったのですが、『完全にストレスが原因です』なんて言われて。福島県に戻って、少しは良くなりました」

紀香さんに会いたいと待っていた母親の馨さん(73)は、「仮設住宅にはいろんな行事があるけど、借り上げのアパートだと、近所付き合い

いわずと二本松市では避難住民を対象にしたこのころのケア活動にも参加しました。二本松市の旧平石小学校仮設住宅集会所で開いたこのころのケアには、約40人の住民が参加。和歌山赤十字看護専門学校の高岸壽美副校長の指導の下、一人でストレスを解消できる呼吸法やリラクゼーション、2人1組になってお互いにケアしあう「きずなのワーク」に取り組みました。

「ストレスがたまると、心が

伸びきって戻らなくなりま

す。パンツのゴムが伸びきつてしまつと、パンツが落ちてしまふのと同じですよ」「ためていいのはお金だけ。ストレスはためないで」

こんな高岸さんの軽妙な指導や紀香さんの優しい笑顔、参加者の愉快なリアクションが相まって、会場は大きな笑いに包まれました。

二本松市の浪江町役場二本松事務所も訪問。馬場町長に健康調査やこのころのケア活動について報告し、町の実情などを聞きました。

馬場町長は「震災関連死が190人に上ります。度重なる避難が体に相当こたえているのです。日赤のこのころのケアやリラクゼーションで、生きる力がもたえます」。

「福島と浪江の今を伝え続けていきます」

紀香さんは庁舎内を回り、「日赤広報特使として、これからも福島県の今を、浪江町の今を全国に伝えていきます。困難な仕事に従事している皆さん、体に気をつけて、頑張ってください」と職員を激励しました。



「まず自分のストレスに気づき、自分でケアすることが大切です」と仮設住宅の皆さんにセルフマネージメントを呼びかける高岸さん

シンポジウム「災害対応とボランティア」



「東日本大震災でのボランティア経験を、それぞれの地元での減災活動に活かしていくことが大切」と東浦教授は強調

赤十字・国際NGOsの行動規範

- 1 人道的見地を第一に
- 2 援助の優先度は必要性にのみ基づいて決定(公平)
- 3 援助を政治、宗教の拡大手段に使用しない(中立)
- 4 政府の外交政策の手段としての行動を慎む(独立)
- 5 文化と慣習を尊重する
- 6 地元の対応能力に基づく災害救援活動に努力
- 7 緊急援助の運営への受益者参加を目指す
- 8 将来の災害に対する脆弱性軽減の視点を持つ
- 9 援助対象者と寄付者の双方への説明責任
- 10 被災者を尊厳ある人間として取り扱う

「ボランティアによる被災者支援の有効性を高めるのに何が必要か」を考えるシンポジウム「災害対応とボランティア」が11月1日、日本赤十字看護大学(東京・渋谷)で開かれ、ボランティア間の連携などについて、議論を深めました。

シンポジウムは日本赤十字社や「広がれボランティアの輪」連絡会議(山崎美貴子会長)などの主催。主催者あいさつした日赤の大塚義治副社

連携のあり方、行動規範などについて議論
「赤十字・国際NGOsの行動規範」も紹介

長は「東日本大震災でボラン

ティアは大きな役割を果たし

たが、共通の行動規範などがあ

ればもっと力を発揮できたのでは」と提起。また、日赤

内部でボランティア組織との連携について議論が始まって

いることを紹介しました。

ボランティア間の「連携」について、防災&情報研究所の高梨成子代表は「行政を含めた他機関との連携が重要。災害が起きる前から顔の見える関係の構築を」と強調。日

本福祉大学の村上徹也教授

は、現場での連携を成功させるには「各団体がそれぞれの活動について共同で点検作業を」と提起しました。

基調講演した日赤看護大学の東浦洋教授(国際・災害看護)は、東日本大震災で海外からの人的支援があったことに触れ、「日本にはこれまで、海外からの支援を受ける想定がなかった。今後はそれを受け入れるための国内法整備が求められる」と訴えました。

被災者から学ぶ謙虚さを

ボランティア活動の共通の行動規範というテーマについては、東浦教授が「赤十字・

AKB48 × 日本赤十字社
Japanese Red Cross Society今度は名古屋 SKE48と一緒に
メルマガ読者がAED

「もしものときに焦らないためにも講習が大切。みんなに参加してほしいですね」——赤十字オフィシャルメッセージを務めるAKB48の姉妹グループ、SKE48のメンバーが、愛知県支部(名古屋

市)で11月7日に開催された救急法講習会に、一般受講者と一緒に参加。心肺蘇生やAED(自動体外式除細動器)の使い方を学んだメンバーからは、講習の大切さを周りに伝えたいという決意が語られ



メルマガ読者から選ばれた受講者とともにAED講習を受ける木崎ゆりあさん(左)と木本花音さん(右)

「皆さんも受講を」
メンバーが訴え

今回SKE48から参加したのは木崎ゆりあさんと木本花音さんです。救護服姿で登場した2人は「先にAKB48のメンバーが受講したと聞いていましたので、私も早く参加したいと思っていました(木崎さん)とやる気まんまんな心臓マッサージ(胸骨圧迫)と人工呼吸による心肺蘇生AEDの使用に挑戦しました。初体験で少し不安だったという木本さんは「AEDからの音声ガイダンスがあったので安心して使うことができました」とほっとした様子。「でも一人での心肺蘇生は大変。周りの協力も必要ですね」と感想を語ります。

木崎さんは「落ち着いてできるように、これからこういう講習に参加したい。皆さんにもぜひ、参加していただければと思います」と呼びかけました。「SKEが好きだから」と講習会に参加した冬頭七海さん(19)は「SKE48の2人も一緒にすごく楽しかったです。普段から献血はし

ていますが、それ以外には赤十字のことをよく知りませんでした。ほかの講習も受けてみたいと思います」と話していました。

福岡ではHKT48と、大阪ではNMB48とのAED講習を開催。詳しくは次号でお知らせします。

今回のAED講習会イベントは、日赤のメルマガ登録者を対象に実施しました。これからも、日赤のさまざまな活動やイベントをお届けしますので、ぜひご登録ください。
(<http://www.jrc-akb48.jp/>)



●講習会で使用したパンフレット「AKB48と学ぼう! 心肺蘇生とAED」は、日赤ホームページからダウンロードできます。
(<http://www.jrc.or.jp/study/safety/>)

期中初の理事会を開催

上半期の重点事業を報告

平成24年度第3回の理事会が11月16日、日本赤十字社本社(東京・港区)で開催され、

43人の理事が出席。「東日本大震災義援金にかかる予算の補正」などの付議事項の審議を含め、上半期の重点事業の報告を初めて行いました。

報告事項の一つとして、企画広報室長から「赤十字運動月間の広報効果」について、今年度の事業計画の概要や広報の実施状況、月間広報効果調査の結果など、5月を中心に放送されたテレビCMを実際に放映

して説明しました。理事からは「赤十字奉仕団などのボランティアの方たちの活動を撮影して、赤十字の身近な声や顔をCMにしたいだけ」と、顔の見えるCM「になると思います」という貴重な意見が出されました。

今後も全国の理事からの意見を反映し、赤十字の活動がますます発展していけるよう、期中の理事会の開催を定例化していく予定です。

常任理事会開催報告

平成24年11月16日、本社において平成24年度第7回の常任理事会が開催されました。審議結果は左記のとおりです。

記

1 予算の補正について

(日本赤十字社和歌山医療センターの救命救急の診療機能充実に必要な医療機器等の整備、松山赤十字病院の電子カルテシステム導入及び現行オーダーリングシステムの残リソースの支払にかかる医療施設特別会計歳入歳出予算の補正)

2 規則の改正について

(日本赤十字社職員給与要綱の一部改正)

正)

3 理事会に付議する事項

(東日本大震災義援金にかかる一般会計歳入歳出予算の補正、東京都赤十字血液センターの土地取得にかかる血液事業特別会計歳入歳出予算の補正、日本赤十字社本社組織規則の一部改正)

審議の結果、予算の補正、規則の改正については原案のとおり議決され、理事会に付議する事項については、原案のとおり同日11月16日開催の理事会に付議することが了承されました。

また、予算の補正にかかる10月分の社長専決事項の決定状況について、報告しました。

理事会開催報告

平成24年11月16日、本社において平成24年度第3回の理事会が開催されました。審議結果は左記のとおりです。

記

1 予算の補正について

(東日本大震災義援金にかかる一般会計歳入歳出予算の補正、東京都赤十字血液センターの土地取得にかかる血液事業特別会計歳入歳出予算の補正)

2 規則の改正

(日本赤十字社本社組織規則の一部改正)

正)

審議の結果、予算の補正、規則の改正については原案のとおり議決されました。

また、上半期における各事業の報告として、東日本大震災義援金の受付配分状況及び受付期間の延長並びに義援金にかかる課題への取組み、東日本大震災復興支援事業、大規模地震対応計画の整備と今後の取組み、赤十字運動月間の広報効果、北朝鮮への募参及び遺骨帰還にかかる日朝赤十字会談、国際赤十字・赤新月社連盟会長の主な任務、一般社団法人日本血液製剤機構の事業開始について、それぞれ報告しました。



海外たすけあい(12月1日~25日)

あなたの寄付で支援活動を支援してください

安全な環境で
子どもを産みたい



ウガンダ
Uganda

多くの妊婦が自宅で出産し、妊産婦死亡率が日本の70倍以上に達するウガンダ。安心して出産できる環境づくりへ、母子保健の地域ボランティアを育成したり、出産に最低限必要な資材の入った「ママバッグ」を配付するなどの支援を進めています。

ケニア
Kenya



ケニア北東部のガルバチュウラでは、多くの子どもたちが栄養失調や下痢症、マラリアなどに苦しんでいます。地域保健強化事業(愛ホップ)は、子どもたちのいのちと健康を守るため、保健衛生環境の改善や医療体制の強化、予防接種の普及などを進めています。

子どもたちの笑顔が
明日も続くように

災害に負けない
地域を目指して



ネパール
Nepal

ネパールは国土の8割が山岳地帯。地滑りや土石流、洪水などの自然災害が頻発していて、近い将来、地震の発生も懸念されています。同国赤十字社が取り組む災害対策事業を日赤は支援。住民からは「日本の災害対策を学びたい」との期待も寄せられています。

ニジェール
Niger



世界の最貧国の一つ、ニジェールでは、相次ぐ干ばつで食糧危機が発生。隣国マリの内戦による避難民の流入が事態の悪化に拍車をかけています。国際赤十字は危機の克服へ、食糧や事業資金を配付するとともに、農業生産の向上に向けた種の配付なども実施しています。

干ばつによる飢餓から
人々を救う

内戦の中、
あきらめない人道支援活動



シリア
Syria

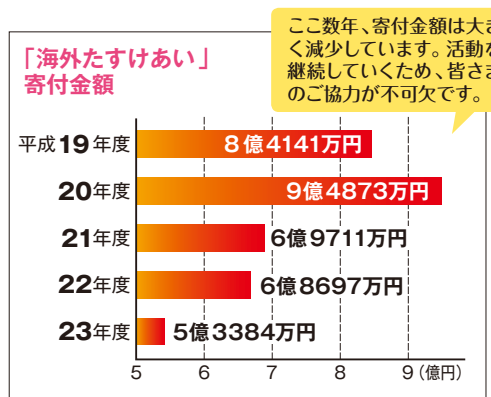
政府軍と反政府組織との武力衝突が続くシリア。同国赤新月社と赤十字国際委員会(ICRC)は唯一の人道支援機関として、傷病者の搬送や応急手当、緊急救援物資の配付などを行っています。多くの避難民が流入している隣国でも赤十字の支援が続きます。

今年で30回目 あなたの善意が世界に笑顔を広げています

日本赤十字社がNHKと共同で取り組む「海外たすけあい」キャンペーンが12月1日から始まりました。全国の皆さまからの寄付を12月25日まで募集しています。

赤十字のネットワークを活かし世界へ

「海外たすけあい」は昭和58年にスタート。今年は30回目の節目です。これまでに寄せられた212億円余りの寄付金は、世界に広がる赤十字のネットワークを通じて、支援を待つ人々のために活用されてきました。去年の東日本大震災では、これまで「海外たすけあい」で支援してきた国々からも多くの救援



金が寄せられ、助け、助けられる関係が世界に広がっています。干ばつによる凶作が続くニジェールで赤十字の支援を受けたガーディ・ゾラさんは「1日1食で、みんな病気がち。私も何キロも痩せ、子どもは衰弱してしまっただけ。今では、1日に2~3回の食事を取ることができ、私も体重が増え始めました」と笑顔で支援への感謝を口にします。

支援から取り残される地域に焦点

中東やアフリカ地域を中心とする武力紛争で、今日も多くの人が犠牲になっています。戦乱のシリアからヨルダンへ避難してきたナディアさんは「私たちには何もありません。食べる物、おむつ、マッパバッグが必要です。冬を越えるか心配です」と表情を曇らせます。こうした武力紛争では、中立の立場で活動する赤十字の支援が重要になっています。また、相次ぐ自然災害では多くの人が被災。開発途上国では基礎的な保健医療サービスが受けられず、健康を脅かされる人も少なくありません。

ところが、メディアに注目された国や地域以外には人々の目が向けられることは少なく、十分な支援が届かないのが実情です。「海外たすけあい」は、赤十字だからこそ関われる紛争地域や、国際的な関心が集まらない国や地域にも焦点を当て、救援・開発協力分野での支援活動に寄付金を活用しています。

「海外たすけあい」特設サイトでは、世界各地の支援活動をご紹介します。<http://www.jrc-kaigai.jp/>

赤十字シンポジウム2012

子どもたちが「わたしの『たすけあい』宣言」

「たすけあいを、忘れない。~今わたしたちにできること~」をテーマにした赤十字シンポジウムが11月10日、都内で開催され、小学生の子どもたちを中心に273人が参加しました。4人のパネリストが共通して語りかけたのは「世界の現状を知る」「関わり合い、相手のことを考える」ことの大切さ。子どもたちは「英語はできないけど、外国の人と仲良くするため、まずはあいさつをしたい」など思いの「たすけあい」を宣言しました。



「シエラレオネ人の平均寿命は？」など世界の豆知識に関する〇×クイズで、会場は盛り上がりしました。

寄付で支えられる支援活動

世界の苦しむ人々を救うための支援活動は、皆さまからお寄せいただく寄付金で支えられています。

あなたの寄付で、できることがたくさんあります。

100円	→	マングローブの苗木25本分	100円	→	学習キット(鉛筆1本、ノート1冊)3セット分
1000円	→	テントなどに使われるビニールシート	3000円	→	出産の必需品が入ったママバッグ

全国の郵便局及びゆうちょ銀行直営店、銀行などの金融機関で

振込で

NHK各放送局、最寄りの日本赤十字社の都道府県支部、病院、献血ルームで

窓口で

ナビダイヤルで0570-009595または、日本赤十字社海外たすけあいキャンペーン係 TEL 03-3437-7081

お電話で

日本赤十字社 海外たすけあい 検索 <http://www.jrc-kaigai.jp>

ホームページで

平成24年度事業計画 8.3億円

紛争で苦しむ人への支援 …… 2.2億円

武力紛争による犠牲者の緊急救援や、避難生活を送る人への支援を行います
【主な対象国】シリア/アフガニスタン/ソマリア/スーダン/南スーダン/その他紛争が発生した国

災害で苦しむ人への支援 …… 3.2億円

大規模災害発生時の救援活動に加え、将来の災害に備えるための活動を支援します
【主な対象国】ベトナム/インドネシア/ネパール/その他突発的な災害に見舞われた国

病気を身を守るための支援 … 2.4億円

医療、保健、衛生分野での知識の普及、生活環境の改善などを支援します
【主な対象国】ケニア/ウガンダ/シエラレオネ/ミャンマー/カンボジア

事務経費 …… 5000万円

ファミリーマートの情報端末「famiポート」、その他コンビニエンスストアでもホームページで申込みいただいた寄付のお支払いが可能です。

自然災害や事故、テロなども想定 あらゆる事態に備え各地で救護訓練



岐阜県／群馬県／栃木県／愛媛県

2012.10

いつ発生するか分からない自然災害や事故。日本赤十字社では、さまざまなケースを想定した災害救護訓練を各地で積み重ねています。

岐阜県支部は10月27日、化学テロを想定した訓練を岐阜赤十字病院で実施。地元消防職員や高山赤十字病院の救護班も参加し、化学物質に

汚染された傷病者救護や除染作業などを行いました。

重大な事故の際も救護班やDMAT(災害派遣医療チーム)の出番です。群馬県支部は、今年4月に発生した関越自動車道での高速バス事故を踏まえ、多重事故を想定した訓練を10月28日に県と合同で実施し、消防やDMAT、他県支部からの応援救護班などとの連携を確認しました。

広域救護活動に備えた訓練も行われました。首都圏を中心とする1都8県支部と本社による「第2ブロック支部災害救護訓練」は10月11、12日に

栃木県で開催され、約350人の医師・看護師・ボランティアらが参加。10月27、28日に愛媛県で行われた中国・四国各県支部合同災害救護訓練では、自衛隊衛生班との協働や海上保安部巡視艇による救護班移送、松山市ボランティアセンターと連携した防災ボランティアセンターの運営などを訓練しました。



群馬県支部では4月の高速バス事故を踏まえて、連携を重視した訓練に



岐阜県支部の除染ユニットを使用した訓練は、他の災害拠点病院も注目

地域奉仕団が合同研修会 手作り防災頭巾に挑戦



静岡県

2012.9.27

「今日来られなかった団員に紹介したいくらい、良いですね」。静岡県内の4つの地域赤十字奉仕団(浜松市天竜、浜松市浜北、浜松市春野、伊豆の国市)の合同研修会が浜松市天竜区で行われ、98人の団員がバスタオルを活用した防災頭巾作りに挑戦しました。

浜松市天竜赤十字奉仕団が地域の高齢者と一緒に2年前から取り組んできた防災頭巾作り。今回の研修で、他の奉仕団にも紹介することになりました。頭巾の中には軍手と靴下が縫い付けられ、使い捨てカイロや笛を入れられるポケットも。災害時、避難した先でバスタオルとしても使える多機能型の優れ物です。



「簡単にできて、とても機能的」と仕上がりに満足

心臓病の市民講座開催 最新の治療法などを解説



徳島県

2012.10.25

「カテーテルってどう使われるの?」「体への負担は?」。一般の方のそうした疑問に答えていこうと、徳島赤十字病院は「もっと知りたい検査と治療～手術痕なしに治るカテーテルの実際～」と題した市民公開講座を開催しました。

講座では、専門医4人が狭心症・心筋梗塞といった病気のメカニズム、カテーテルを使った治療や検査の手順、最新のステント技術などについて解説。カテーテルを用いた手術の映像では、術前と術後の一目瞭然の違いに、100人を超える来場者から驚きの声が上がりました。

カテーテルの技術は日々進歩。体への負担も少なく、短時間で検査や手術が可能になっています。



カテーテルを使った手術を受ける様子も生中継されました

義肢製作所の福祉教室 常陸宮妃殿下がご視察



千葉県

2012.11.8

支部創立120周年を記念した千葉県赤十字大会にご臨席された日本赤十字社名誉副総裁常陸宮妃殿下が、式典に先立ち、千葉市の県支部内にある「義肢製作所」を訪問。製作所で行われた「福祉体験教室」を視察されました。

義肢製作所は、義肢・補装具製作のかたわら、社会福祉の理解促進に努めています。交通事故で両足を失い義肢生活を送る脇本富美子さんを講師に、小学生6人が模擬義足による歩行を体験。常陸宮妃殿下が脇本さんに「これまで大変なご苦労があったと思います」と声をかけると、脇本さんは「皆さまのお役に立てるのなら、協力は惜しみません」と思いを伝えました。



常陸宮妃殿下に「温かみのあるお言葉をいただき、大変感動しました」と脇本さん

「自由都市・堺 平和貢献賞」 台湾赤十字組織が受賞



大阪府

2012.10.25

国際的な平和貢献活動を行った個人や団体を顕彰する「自由都市・堺 平和貢献賞」の今年の大賞に「台湾赤十字組織」が選ばれました。

同賞は堺市が創設したもので、今年で3回目。台湾赤十字組織の受賞は、東日本大震災の被災地支援のため約67億円もの海外救援金を日本赤十字社に寄せた取り組みなどが「日台関係の発展、アジア太平洋地域の平和・安定の構築に大きく寄与」と評価されたものです。授賞式で台湾赤十字組織の王清峰会長は「台湾中部大地震では日本から多くの支援をいただきました。その時の恩返しをしなければなりません」と述べられました。



「愛に国境はありません」という王会長の言葉に、会場から拍手が送られました

秋だ祭りだ赤十字！ 楽しく知ろう赤十字！ 各地フェスタが満員御礼の熱い活気



愛知県／栃木県／香川県／岐阜県

2012.10～11

日本赤十字社が行っているさまざまな活動をもっと知ってもらおうと「赤十字フェスタ」などのイベントが各地で開催されました。

企画・運営には、赤十字奉仕団や青少年赤十字(JRC)のボランティアも協力。救急法体験や健康相談など各コーナーは、大勢の来場者でにぎわいました。

11月3日、愛知県支部で開かれた「あいち赤十字フェスタ」では、昨年好評だった災害備蓄倉庫を見学する“日赤あいちゃんけん隊”に加え、dERU(移動式仮設診療所)の中で救急法を学ぶ新企画が人気。同日、栃木県支部が宇都宮市内で開いた「赤十字まつり」では、奉仕団による寸劇やハンドベル演奏、JRCメンバーによる手話歌などが披露されたほか、栃木県キャラクターの「とちまるくん」も応援に駆けつけ、会場を盛り上げました。

香川県は「赤十字フェスタ2012秋」を10月18日に高松市内で開催。

東日本大震災の写真パネルやdERUを展示して救護活動を紹介したほか、「献血チャレンジ」などのコーナーを設けました。JRC加盟校の生徒から募集した絵画・習字の入賞作品を展示したのは、10月20日に岐阜市内で開かれた「赤十字フェアぎふ」。奉仕団やJRCメンバーによる義援金募集も行われました。



1800人以上の来場者でにぎわう香川県支部の「赤十字フェスタ2012秋」



名古屋グランパスのマスコット「グランパスくん」も日赤あいちゃんけん隊の一員に

心からの寄付に感謝！

動く集中治療室
有功会企業より寄贈

徳島県

救急疾患の救命に必要な機器・医薬品が搭載され、医師も同乗する高規格救急車「モビルICU」1台が、徳島県赤十字有功会会員の3企業より徳島赤十字病院に寄贈されました。同院は四国で唯一の高度救命救急センターとして、すでに1台のモビルICUを運用してきましたが、出勤回数は年間約200回と稼働の限界に。新たな1台が加わることで、救急医療の一層の充実が図れます。



株式会社阿波銀行、大塚グループ、日亜化学工業株式会社の3社から贈呈を受けました

株主優待制度で寄付金
地方銀行初の取り組み

愛媛県

株式会社伊予銀行(本社・松山市)は、株主に対する優待制度の一つとして、日本赤十字社への寄付金コースを地方銀行として初めて導入。10月25日に98人の株主から寄付された81万円の目録が、赤十字活動資金として大塚岩男頭取より愛媛県支部の中村時広支部長へ贈られました。



「これからも社会貢献活動を推進していきます」と大塚頭取(左)

京都府南部豪雨災害への義援金 ご協力ありがとうございました

今年8月に豪雨災害に見舞われた京都府の被災者支援に向けた義援金にご協力いただき、心より感謝申し上げます(10月31日で受付終了)。皆さまから寄せられた義援金額は以下の通りです。同府に設置された義援金配分委員会を通じて、全額を被災者の方にお届けします。

京都府南部豪雨災害義援金 3144万8283円【1010件】(11月12日現在)

赤十字広報大使 藤原紀香さんがナビゲート

赤十字発祥のドキュメンタリー番組



赤十字広報大使をつとめる藤原紀香さんが、赤十字ゆかりの地イタリア・ソルフェリーノとスイス・ジュネーブを訪問。創設者アンリー・デュナンがソルフェリーノを訪れた際に経験した戦争の悲惨さや当時の状況を顧みながら、赤十字発足の歴史を探るドキュメンタリー番組が放映されます。ぜひご覧ください。

番組名：藤原紀香が辿る～赤十字とソルフェリーノの戦い

放映日時：12月15日(土)20～21時 ナショナル ジオグラフィック チャンネル
※放映日時は変更場合があります。

ナショナル ジオグラフィック チャンネルの視聴方法

スカパー!の単チャンネル、バック、セットのほか、ケーブルテレビでもご覧いただけます。(それぞれご契約、チャンネル視聴申し込みが必要です)
詳しくは、TEL 03-5777-4123 (平日 10:00～18:00) <http://www.ngc-japan.com>

プレゼント

AED講習会イベントに参加したSKE48の木崎ゆりあさん、木本花音さんのサイン入り「AKB48と学ぼう!『心肺蘇生とAED』下敷き」を3名様にプレゼントします。以下の項目を明記のうえ、郵送・FAX・メールにてご応募ください。



- ①お名前(匿名をご希望の方は、その旨もご記入ください)
- ②郵便番号・ご住所 ③電話番号 ④年齢
- ⑤赤十字 NEWS 12月号を手に入れた場所(例/献血ルーム)
- ⑥赤十字 NEWS へのご意見・ご感想や、扱ってほしいテーマなど

応募先 ● 郵送/〒105-8521 東京都港区芝大門 1-1-3
日本赤十字社 企画広報室 赤十字 NEWS 12月号プレゼント係
FAX/03-3432-5507
メール/ koho@jrc.or.jp (件名「赤十字 NEWS 12月号プレゼント係」)

応募締切 ● 12月26日(水)必着
※当選者の発表はプレゼントの発送をもって代えさせていただきます。

AKB48

メールマガジンの登録受付中!

日本赤十字社のメールマガジンでは、日赤のさまざまな活動や都道府県支部ごとのイベント案内、お役立ち情報などをお届けします。また、オフィシャルメッセンジャーであるAKB48の特設サイトでは、スペシャルコンテンツを随時更新。ぜひご登録ください。今すぐ <http://www.jrc-akb48.jp>



facebookに日赤公式ページができました。東日本大震災での取り組みをはじめ、とっさの手当や献血のこと、国内外の活動現場の写真など赤十字ならではの最新情報を発信していますので、ぜひご覧ください!
<http://www.facebook.com/japaneseredcross>

アフリカへ届けよう
心のこもったメッセージ

神奈川県

2012.10.20～21

日赤が支援活動を行っているケニアとウガンダへ、日本からのメッセージを届けようというイベントが「よこはま国際フェスタ」で行われました。

横浜市の象の鼻パークで開催された同フェスタは、国際交流や支援などの活動を多くの人に紹介していくのが目的。来年、横浜で開かれる「第5回アフリカ開発会議」に合わせ、アフリカをテーマとするさまざまなイベントが行われ、5万6000人が来場しました。日赤ブースでは、ケニアとウガンダの子どもたちや母親らへのメッセージを届けるイベントなどを企画。大きな布は「子どもたちが笑い合える未来を共に作りましょう」など来場者の思いのメッセージでいっぱいになりました。



心のこもったたくさんのメッセージ、ありがとうございました!

病院でクラシックコンサート
芸術の秋を楽しく満喫

沖縄県

2012.10.26

沖縄赤十字病院で院内コンサート「クラシック室内楽」が開催され、患者やその家族ら約80人が芸術の秋を満喫しました。

演奏は、沖縄県糸満市大度を拠点として活動している社会人室内楽団の大度室内楽団の11人。沖縄出身の作曲家、宮良長包の「えんどうの花」から始まり「青い山脈」「スタンド・バイ・ミー」など親しみやすい曲や、「2つのバイオリンのための協奏曲」「くるみ割り人形」組曲など全10曲を披露しました。

子どもたちの中には、手をたたきながら踊り出す姿も。通院患者の有川美智子さん(74)は「素晴らしい演奏でした。楽しくて自然に体が動き出しました」と感激の面持ちで感想を語りました。



目を閉じると病院であることを忘れるひと時となりました

ハロウィーンで園児と交流
看護学生がお楽しみ会

兵庫県

2012.10.30

マントを羽織ったり、帽子をかぶったり思い思いに仮装した姫路赤十字病院保育所の園児約20人が10月30日、隣接する姫路赤十字看護専門学校を訪れました。ハロウィーン(10月31日)に合わせたイベントで、看護学校の1年生が小児看護学の授業の一環として、子どもたちと遊んだりしながら交流しました。

また、ハロウィーンをテーマにしたお楽しみ会も同校の小児病棟訪問班の学生たちが開催。小児病棟と院内保育所を訪問した学生は、自作の劇を披露し、手作りのプレゼントを子どもたちに手渡しました。1年生の佐伯ひかるさんは「子どもたちが楽しんでくれることで、私たちも元気をもらっています」と充実感あふれる笑顔を見せてくれました。



子どもたちと触れ合うことは、学生たちにとって大きな学びになりました

若い力で大阪城清掃作戦
高校生と大学生がタッグ

大阪府

2012.10.21

青年(学生)赤十字奉仕団と青少年赤十字(JRC)の高校生メンバーの共同による大阪城公園の清掃活動が行われ、48人が参加しました。

共同の清掃活動は、8月に実施された平成24年度ボランティア・リーダー研修に参加した赤十字の学生ボランティアの提案によるもの。2カ月間をかけて、参加者募集や公園事務所との調整、活動に必要な物品の調達などの準備を行ってきました。別々に活動している青年赤十字奉仕団とJRCメンバーの協力により実現した今回の清掃活動は、お互いの活動を知る機会にも。これを契機にさらなる連携を図り、その時々ニーズに合致した活動へと発展させていくことが期待されています。



「高校生の赤十字メンバーと交流ができて、有意義な体験だった」と学生ボランティア

WORLD NEWS



ネパール

海外たすけあい特別レポート①

防災事業支援に高い期待

ネパール駐在員 藤巻 三洋

日本赤十字社が今年度からネパールで開始したコミュニティー防災事業の支援プログラム。地域の防災力を高め、住民自身が自らの力で災害に対処し、被害を最小限に食い止めようというものです。その事業実施に関わるコーディネーターとして、8月からネパールに派遣されています。

この国は、アジアの中でも災害リスクの高い国の一つです。モンスーン期には、洪水、土砂崩れが頻発。増水した川を泳いで学校へ通っている子どもたちがいます。いかに荷物を載せて、肩まで水に浸かりながら濁流を渡る人々もいます。いのち



ネパール赤十字社のスタッフと打ち合わせ。防災事業に対する期待は大きい

ハリケーン「サンディ」

カリブ海沿岸、アメリカ北東部に大被害
被災者支援へ救援金募集中

10月末にカリブ海沿岸からアメリカ北東部を襲った大型ハリケーン「サンディ」は、死者176人、損壊家屋約33万戸など各国に甚大な被害をもたらしました。特に、キューバ、ジャマイカ、ハイチでは農地、インフラ等への被害による経済的損失が大きく、復興へのめどが立っていないため、国際的な支援が必要となっています。

こうした事態に国際赤十字・赤新月社連盟(IFRC)は、被災3カ国の被災者支援・復興へ向けて各国赤十字社に国際支援を要請。日本赤十字社はIFRCの要請に応えるための救援金を現在募集中です。

キューバとハイチへ各2000万円、ジャマイカへ約375万円を支援します。これらの資金は、被災国赤十字社が取り組む救援物資の配付、給水所やトイレの設置、保健・衛生活動などに役立てられます。

名 称／ハリケーン「サンディ」救援金
受付期間／平成24年12月25日(火)まで
受付口座／郵便振替口座 00120-5-220
口座名義／日本赤十字社

※通信欄に「ハリケーン」または「サンディ」と必ずご記入ください。
※受領証の発行を希望される場合は、その旨を通信欄にご記入ください。
※窓口での取扱の場合、振替手数料は免除されます。
※支援国の指定はできません。救援金はそれぞれの国のニーズに基づき配分されます。

■お問い合わせ
日本赤十字社組織推進部海外救援金担当
TEL 03-3437-7081

ケニア

海外たすけあい特別レポート②

事業の成果は母子の笑顔

ケニア駐在員 五十嵐 真希

ケニア北東部の乾燥地帯にあるガルバチューラで、子どもたちとお母さんのいのちと健康を守る地域保健強化事業「愛ホップ」に4年前から携わっています。

この地方の人たちは、干ばつや洪水で家や家畜を毎年のように失っています。水道や電気もなく、バスも走っていません。子どもたちは毎日、朝と夕の2回、20リットルの容器を抱え、井戸や川に水汲みに行かなければなりません。干ばつ時には食糧と水が不足し、一口のおかゆでさえ3日に1回しか食べられないことがあります。

子どもたちは栄養失調状態となり、マラリアや発熱、下痢症、肺炎などで簡単にいのちを落としています。また、妊婦は遠く離れた診療所に行くときに、ロバの荷台に数時間も揺られなければなりません。

見えてきた地域保健の向上

この過酷な環境で暮らす子どもやお母さんたちのために、愛ホップは地域保健員を育成し、地域に根付いた保育医療体制を築いています。支えているのは「海外たす



移動診療所で妊産婦へ出産までのアドバイスや薬の説明をする五十嵐職員(エスコット村)

けあい募金」です。

愛ホップの取り組みにより、予防接種、保健衛生指導、妊産婦検診などが地域に大きく普及されてきました。子どもたちの予防接種率は向上し、下痢症が頻繁に流行していた地域でも件数は減少してきており、「地域保健の向上に貢献している」と多くの方から感謝されています。

これらの成果を維持するには、生活支援や保健衛生活動の継続が不可欠です。一人でも多くの子どもたちとお母さんの笑顔といのちを守るため、私も力を尽くしたいと思います。

最終回

ドクター中出の
カロンゴ日記

中出 雅治 (外科医)
1959年生まれ。大阪赤十字病院 国際医療救援部長。専門は呼吸器外科、災害・戦傷外科。インドネシア、パキスタン、ハイチ、イラク、ネパールなどで活動。ウガンダには、計5回、延べ14カ月滞在。

日本赤十字社が2010年4月から取り組む「ウガンダ北部地区病院支援事業」。活動拠点のアンボロソリ医師記念病院(通称カロンゴ病院)での日々を中出医師が報告します。

「アホよ、待て!」

「日本人のガールフレンドが欲しいねん。ウガンダ人男性は6人でも7人でも子どもつくれるで!」

こんな下ネタを振ってくるのが好きな研修医のアランですが、手術の腕はなかなかで、日本ならベテラン産婦人科医が焦るような難しい帝王切開手術も、専門医顔負けの素早さで胎児を取り出します。

ところがこのアラン。「将来は臨床医よりも政府関係の仕事が良い」が口癖。実はウガンダは東アフリカで一番医師の待遇が悪く、カロンゴ病院の医師の月給も600ドル(約5万円)程度。一方で役人の地位は高く、給与も恵まれています。そのため、アランのような転職志望者だけでなく、国外流出する医師も多いのが問題です。

医師育成に着実な成果

医師をめぐるこうした社会的課題を抱えつつも、研修医を育てるプロジェクトは成果を上げてきました。研修医第1号のオケロは、一昨年2月から一般医としてカロンゴ病院で奮闘中。現在研修中のアランたち4人を含め、来年3月までの事業期間中に実地臨床を終える研修医は23人になる予定です。研修医が常時いることで、一般医の過重負担が減り、この病院の医師の離職率も下がっています。

さらに、研修医の受け入れに不可欠な専門医の確保にもめどが立ってきました。地元出身の一般医スマートが、イタリアの民間団体から病院を通して奨学金を受け、今年9月から



日本から持っていった模型で熱心に学ぶ一般医のオケロ(左)と研修医のゴッドソン(右)

大学院に進学したのです。3年後に彼が専門医として戻ってくれば、われわれ日赤が退いた後も、研修医の受け入れと育成が自前で可能になる見通しです。

病院全体のレベルアップを展望して

しかし、課題は残っています。例えば、薬剤や医療資機材の管理。在庫管理の概念がないし担当もないので、ある日突然薬の在庫が切れたり、滅菌ガーゼがなくなることは珍しくありません。

手術後の点滴指示が看護師から無視されるので、「なんで?」と聞くと、「在庫がないし」という返事。またレントゲン撮影は、看護助手の受け持ちですが、ときには一面真っ黒の写真を渡され、「こ、これは心眼をもっと鍛えなければ……」ということもあります。病院全体のレベルアップの必要性和難しさを痛感します。

来年4月からの第2期事業についても検討を開始していますが、日赤から看護師や薬剤師、放射線技師らを派遣し、地元職員と共同して業務を続けていけば、これらの課題のいくらかは克服できるのではと考えています。

さて、「カロンゴ日記」の連載は今回で終了。現地のアチョリ語で「Thank you」は「アフョ」で、「Thank you very much」だと「アフョ マテ」。大阪人には「アホよ、待て」としか聞こえないのですが、読者の皆さん本当に「アフョ マテ!」。